









議長	副議長	局長	次長	統括	副統括	係員
						  

行政視察報告書

平成 28 年 7 月 14 日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員  藤井 義明  議員  蔵本 隆文 
 議員  議員 
 議員  議員 

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】 沖縄 県 八重瀬町 NPO 法人自然体験学校沖縄校

住 所	沖縄県 島尻郡八重瀬町字具志頭 1
電 話	098-998-0330
視察案件	滞在観光・民泊について
期 日	平成 28 年 7 月 5 日 (火) 13 時 30 分 から 17 時 30 分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	NPO 法人自然体験学校沖縄校、民泊施設 (八重瀬町副町長 福島正惟方) 町内観光地 (NPO 法人自然体験学校沖縄校理事長 同行)
概 要	<p>1 視察目的</p> <p>笠岡市創生総合戦略の 3 本柱の 1 つである島嶼部の観光は、今年 1 2 月に住吉港待合所として整備される「笠岡諸島交流センター」の開設に伴い、笠岡諸島に注目を集める大きなチャンスと考えられる。そのためには、それぞれの島において、観光客に魅力的な整備が急務である。</p> <p>このたびの視察は、民泊で成果をあげている八重洲町において、どのような仕組みの中で行っているのか、またどのように観光資源を生かしているのかを、民泊体験も踏まえ笠岡諸島観光に反映できないか、という目的で訪れた。</p> <p>2 八重瀬町について</p> <p>八重瀬町は、沖縄本島の南に位置し、東西に 6.6 km、南北に 9.1 km、総面積は 26.9 km²。東側は糸満市、南側は太平洋、北側は南風原町と豊見城市に接し</p>

ている。地勢は起伏に富んでいて、平坦地の大地の大部分はさとうきび畑で、農業の盛んなまちとして発展。近年は、那覇市に近い北部は都市化が進展してきている。青い海と安らぎの森林、進む都市化、肥沃な大地と紹介している。人口は27,000人ほどで、人口は僅かに増加傾向にある。

3 視察内容

(1) NPO 法人自然体験学校沖縄校

NPO 法人自然体験学校は、現在北海道と沖縄で展開している。事業の主体は、体験観光を活かした地域活性によるまちづくりと、体験活動指導者、観光教育、救急蘇生法などで、沖縄では平和教育も行っている。

NPO 法人自然体験学校の若林理事長の基本的理念として、NPO 法人の独立採算を掲げていました。運営を補助金に頼らず、独立採算とする。また、地域振興としての活動は、地域に収益をもたらさなければならないとしています。またその手段として、広域的な地域連携（他市町を含む）も視野に入れ、観光客にとって魅力的かつ満足性の高いものを目指していた。

現在行われている「沖縄南部体験観光」（ガイドブックもできている）においては、糸満市、豊見城市、南城市、南風原町、与那原町、八重瀬町の3市3町で構成されているが、自治体間で仲が良くない所もありあり、不可能と考えられていたものを、一番観光をあきらめていて地理的に中心にある八重瀬町町長をトップに据え、自治体間の融合を図る計画を企画し、成功させている。その結果として、観光客にとって、それぞれの地域の特色を生かした名所巡りだけでなく、体験型観光の選択肢を広げ、満足度を高める結果となっている。また近隣自治体の歴史的なつながりも紹介されることで、自治体間協力を置いても、相乗効果をもたらす結果をだしている。

ここで行われている特徴的な事の一つに、自然体験活動指導者の育成事業がある。これは、修学旅行生もふくめた観光客への安全性の確保が、観光事業にとって大変重要であることを理解させられた。特に修学旅行においては、子どもを預ける保護者、引率する教師においても、旅行先を決定する上で安全性の高さは、大きな魅力と位置付けている。

ここでは、自然体験活動指導者講習会（3泊4日）を、民泊家庭の要件に入れている。また、救急法（LSFA）やアレルギー講習会も受けるよう指導している。現在では、自然体験活動指導者、民泊家庭を行う多くの方々が習得されており、今後もすそ野の拡大を図っている。

体験学習は、自然体験として、シーカヤック、イノー体験（浅瀬のサンゴ礁に囲まれた中での生物の大切さの体験）、サンゴの苗づくり、ダイビング、漁業体験として、漁船遊覧、トビイカ、海ブドウ、ヒジキ加工等、農業体験として、サトウキビ、ゴーヤ、紅芋、パッションフルーツ、シークワサー体験等、琉球王国の様々な文化体験、沖縄の人と触れ合う体験、聖地巡礼、平和の学習等の様々なプランを用意している。

ここに至るまでには、地域資源の見直しや再構築に相当努力している。地域に住む人にとっては当たり前のことでも、観光客にとっては新鮮に感じることなどは、他地域の人の意見等を重視した結果であると考えられる。

なお、この NPO 法人自然体験学校沖縄校の事務局のある建物は、八重瀬町観光・地域交流宿泊施設で、NPO 法人自然体験学校に管理運営を委託している。しかしながら、委託における管理運営費は払われず、反対に使用料を取っている、というあまり聞いたことがない仕組みである。こうなった理由としては、町の予算が取れないことが原因とされている。したがって、ここの宿泊施設のベッドをはじめ、清掃道具の購入までを NPO が肩代わりしている。その財源は、民泊手数料や、理事長の全国での講演活動の謝礼金で賄われている。国からの補助金等があった場合も、運営費に回すことはせず観光パンフレット等に使用し、自治体のアピールに使用しているという。

基本的には、委託管理というシステムからすればおかしいのであるが、理事長の講演料の持ち出しを当ててでも成功させようとする善意で成り立っているのが事実である。

(2) 民泊

今回お世話になった民泊家庭は、八重瀬町副町長の福島家にお世話になった。民泊は、現在修学旅行生を中心に行っており、福島家でも、修学旅行生以外は初めての経験と聞いた。

民泊家庭では、宿泊だけでなく、民泊家庭それぞれの体験プログラムも実施している。その中には、農業体験、清掃活動、食事の準備等様々な挑戦が行われている。そして、前述の体験観光もセットであることは言うまでもない。

今後は、修学旅行生だけでなく、一般旅行者の拡大も視野に入れている。ただし、長続きさせるためには、ホテルや旅館のように、毎日の営業ではなく、無理のないスケジュールで行っていくようである。

宿泊費は、1万円ほどで、そのうち2,000円が NPO に支払われ、運転資金として活用している。

(3) 観光地

観光地においては、単市町だけではボリュームに欠けるため、3市3町で広域的にカバーしあっている。その中には、ひめゆりの塔の様なメジャーなものをそれぞれの地域の観光めぐりの重点に置き、それぞれの名所を回るように仕組んでいる。特に沖縄らしさ、沖縄に行つて初めて気づくもの等を観光客目線ですばせている点が評価できる。

4 成果

笠岡市の観光施策において、この取り組みから考えさせられる事。

(1) 広域的取り組みの必要性

井笠圏域はもちろんであるが、他市との島同士の連携を深め、笠岡市の特色を探っていくことが必要であると考えられる。海では、瀬戸内国際芸術祭の直島や、オリーブの瀬戸内市、鞆の福山市等との連携、陸では、井笠圏域での観光地連携や、笠岡市で賄いきれない果物等岡山食材の連携等が考えられる。

(2) 島の観光資源の見直し、開発

それぞれの島の歴史や、今の時代に合った観光スポットの開発は欠かせない。特に、島の人々にとって当たり前のことが、観光客にとっては素晴らしいものに感じるような事の開発は、市内外の陸地部の人の感性が重要な事は言うまでもない。それを受け入れる仕組み、実行する仕組み作りが求められる。

(3) 施設の見直し

民泊も含め、宿泊施設の見直し、確保は急がれる。また、観光地ルート内での、休憩所（民間施設、民家も含む）、ベンチ等の計画も企画するうえでの大きな要素となるであろう。

(4) 収益の確保

地域の収益性の確保は、まちづくりをする上で欠かせない。地域振興は収益が上がらなくてはならない。

宿泊施設においては、魚、野菜、果物等の食材を、できるだけ地域の方々に計画的に生産できるようシステムを作り、皆に収益をもたらすことを心掛けなくてはならない。また、宿泊客は、岡山を楽しみに来られているのであるから、笠岡市にこだわらなくても、井笠圏域で確保することも必要である。また、それを宣伝することにより、井笠圏域での連携も深まることにつながるであろう。

5 最後に

(1) 副町長の自宅での民泊において、副町長の計らいで、NPO 中山理事長と2人のスタッフを呼んでいただき、深夜12時頃まで意見交換をさせていただきました。また、沖縄の家庭料理も頂くことができ、貴重な経験ができました。

(2) NPO 法人自然体験学校の運営について、委託の件はともかくとして、自主運営で行われている点は、学ぶべきものが大きかった。また、地域貢献として、ただのボランティアでなく、地域に収益をもたらす活動に感銘を受けました。

若林理事は、全国規模で活躍されておられる方で、たまたまこの日はおられた事で運が良かったことに感謝しています。

スタッフも、東京、福島、千葉等の様々なところから集まっていて、外部目線が有効に働いていると考えられました。

まだ、意欲的に地域資源の開発に取り組んでいました。

添付書類

○視察資料 ○視察状況写真 ○名刺









自然体験学校



STV「1×8いこうよ！」本日放送されます！
大泉洋さんがウォーターウォークに挑戦！2週続けての放送です

2016.07.03



Facebookページ開設しました

2016.06.28

夏の体験受付中！

【北海道なら！洞爺湖・豊浦校】 【沖縄なら！八重瀬町へ】



個人のお客様

個人・少人数のお客さまは
コチラをご覧ください

↓各校の個人のメニューはコチラ

- 洞爺湖・豊浦校
アウトドア インドア
- どかち校
- 仲尾校
アウトドア インドア



団体のお客様

グループ・教育旅行・企業のお客さまは
まずはコチラをご覧ください

↓各校の団体メニューはコチラ

- 洞爺湖・豊浦校
- どかち校
- 仲尾校

沖縄南部民泊はコチラ



まちづくり事業

体験観光を活かした地域活性、
まちづくりについてのご案内です



人材育成& 体験指導者養成事業

体験活動指導者、環境教育、救急蘇生法
などのご案内です



お問い合わせ・所在地

各校への連絡先・メールアドレス
アクセスのご案内です



スタッフ募集

自然体験学校のスタッフを募集しています

- 洞爺湖・豊浦校
- 沖縄校

NPO法人
自然体験学校について

【2】 沖縄 県 久米島町 議会

住 所	沖縄県島尻郡久米島町字比嘉 2870
電 話	098-985-7128
視察案件	海洋深層水複合利用について
期 日	平成 28 年 7 月 6 日 (水) 14 時 00 分 から 17 時 30 分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	久米島町議会 沖縄県海洋温度差発電実証設備、牡蠣陸上養殖実験設備
概 要	<p>1 視察目的</p> <p>(1) 離島において、海洋深層水を発電、牡蠣や海ブドウの陸地養殖、農業分野等の多方面に利用している実態と、今後の成長性をどのように計画しているのかを研究する。</p> <p>そのような取り組みを笠岡市に生かせないかを考えるため。</p> <p>(2) 島の観光資源を、どのように活用しているのか、その現状を見て、笠岡諸島の観光産業に役立てる。</p>
	<p>2 久米島町について</p> <p>久米島町は、面積 63.5k²、周囲約 48 km、口 8,161 人 ((平成 28 年 4 月) である。</p> <p>那覇から西へ約 100 km、飛行機で約 30 分、フェリーで約 4 時間に位置する。農業は、サトウキビ、食肉牛、菊、紅芋、果樹などである。特産品としては、久米島紬、泡盛、車エビ、海ブドウ、海洋深層水関連商品等がある。</p> <p>日本の里 100 選にも入り、自然豊かな島である。砂洲で出来たハテの島は有名な観光地の 1 つである。</p>

3 視察内容

海洋深層水は、太陽の光の届かない 200m 以深の海水のことで、「光合成による有機物生産よりも有機物分解が卓越し、かつ、鉛直混合や人為の影響が少ない、補償深度以深の資源性の高い海水」と定義づけられている。

特徴としては以下のことが」ある。

① 低水温性

太陽の輻射を受ける海面に近い表層の海水に比べて、年間を通じて水温が低くなっている。(水深 600m で 8~10℃、1000m で 4℃程度)

② 清浄性

細菌類が少なく、陸水や大気からの化学物質や病原性微生物などによる汚染の恐れが極めて少ない。

③ 富栄養性

植物の成長に欠かすことのできない無機栄養塩類 (硝酸塩、リン酸塩など) が豊富に含まれている。

視察先の久米島は、全国 16 か所の 1 つである。取水深度は 612m で、日本で第 2 位 (世界第 4 位) 取水量は日本最大 (世界第 2 位) である。

これらの条件の中で利活用が行われている。

(1) 沖縄県海洋温度差発電実証設備

ここでは、海洋深層水（年間平均 9.0℃）と表層海水（年間平均 25.7℃）の温度差を利用して、低沸点媒体である代替フロンを表層海水で気化させ、その蒸気でタービンを駆動させ発電を行っている。気化させた代替フロンは、海洋深層水で冷却し液化させ循環させている。

この発電方式は、2013年4月に始まり、2015年8月にハワイにできるまで、世界唯一のシステムであった。

現在の発電量は 2,000MW で、今後は、希望としては取水量 10 倍を増やすことで発電量を 10 倍に上げたいと考えている。その理由には、発電コストが 10,000KW 級で 20 円/kWh と安いこと、環境への影響が出ないこと、資源が無尽蔵にあること、そして、排水が汚染されていないことで、他の深層水利活用に回せることである。

現在は、他の利活用と接続はしていないが、他の利活用での、深層水不足解消と、排水温度が 2 度ほどしか上昇しないため、他の利活用に十分な温度であることが挙げられる。

(2) 牡蠣陸上養殖

牡蠣陸上養殖は、2014年2月に、オイスターバー最大手の（株）ヒューマンウェブが「沖縄久米島研究所」を設立し、海洋深層水の特徴の清浄性を強みに、雑菌の少ない水を利用して“あたらない牡蠣”の養殖を目指している。

陸上養殖のメリットは、管理された水槽の中で養殖するため、菌やウィルスの無い牡蠣を、季節に関係なく大量生産できることである、と述べている。会社としては、「低価格で大量にウィルスフリーの牡蠣を生産する。」を目標としている。

現段階では、小規模な実験が行われている。また、深層水が、富栄養性であるとはいえ、植物プランクトン等の栄養を与えなくてはならないため、植物プランクトンの自家増殖も行っている。また、大規模のプラントにすることで、深層水の供給も問題となる。発電排水からの供給も同時進行を考えている。深層水温度もそのままでは低すぎるため、発電排水で問題はないと考えられる。

(3) 夏場の野菜生産

夏場の野菜生産に、深層水の低温性を利用して、ハウス内の土地に配管をし、温度を下げることにより、葉物類の生産が行われている。今後は、植物工場への展開も計画されている。

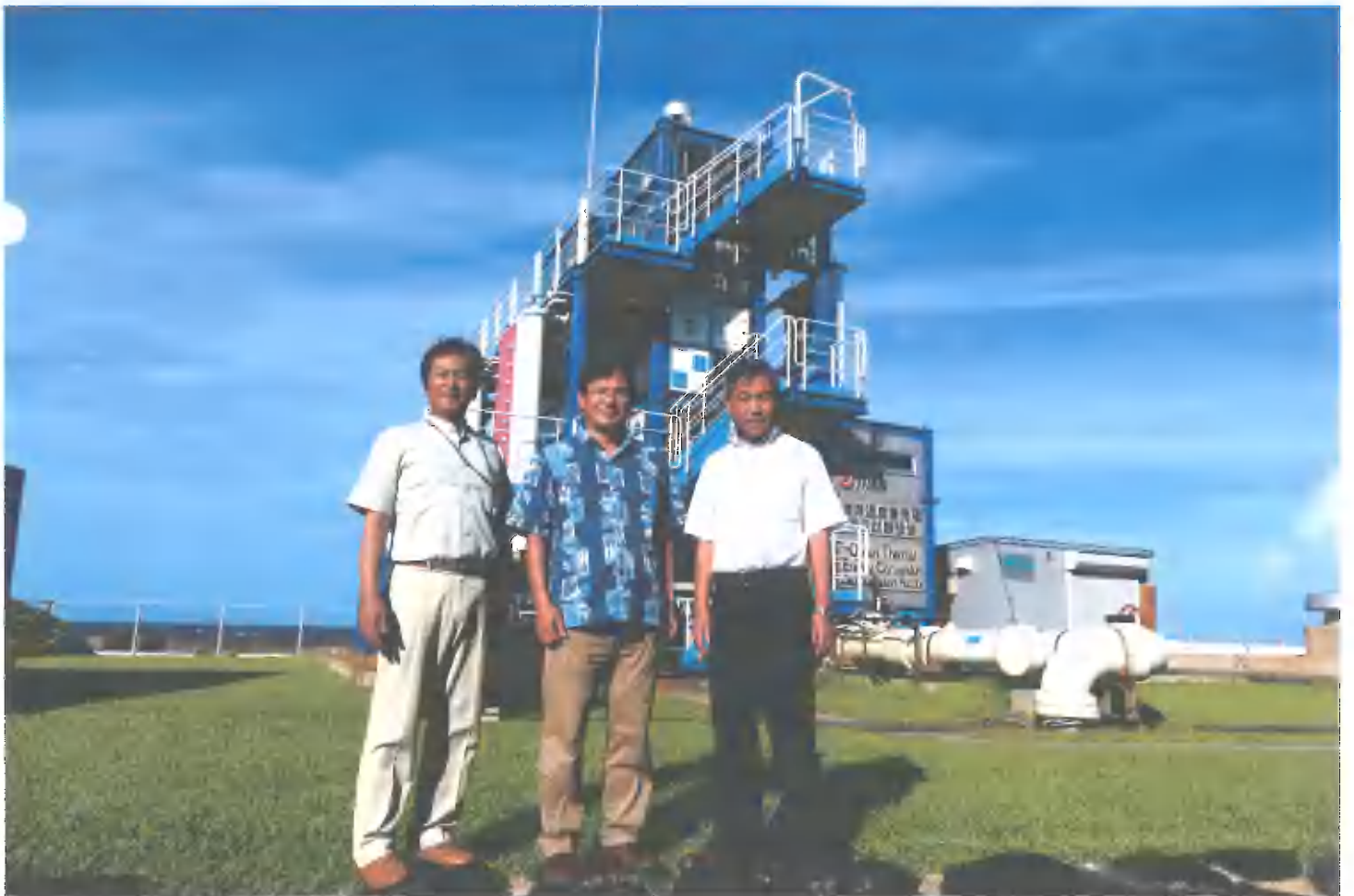
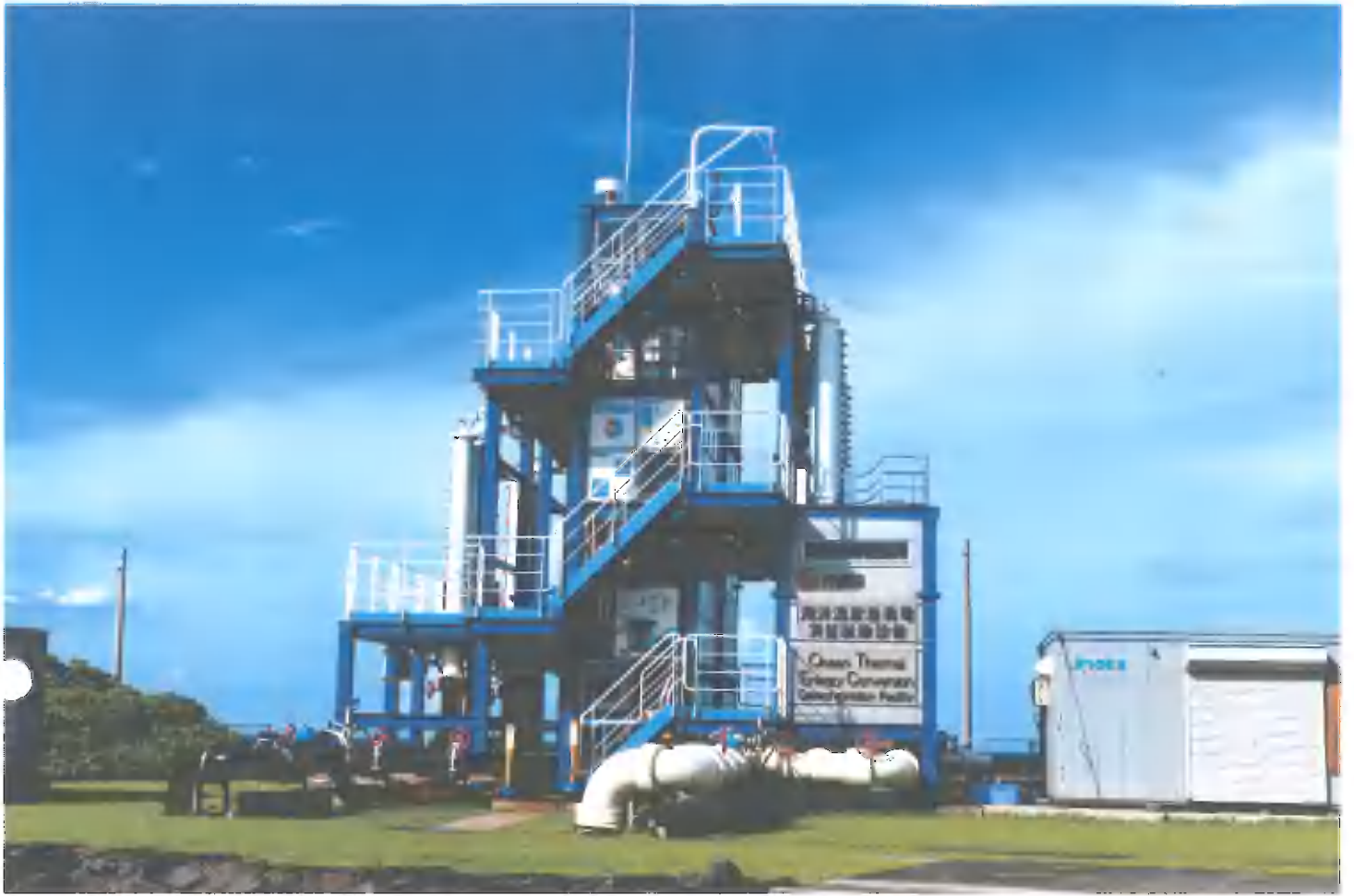
(4) 車海老養殖

深層水水産利用の約 5 割が車海老の養殖に充てられている。車海老のシェアは全国 1 位である。

車海老養殖では、深層水と表層水を混合し、利用水温を 20℃程度としている。特に、夏場などの温度が高い時には、取引価格も上がるため、年間安定した養殖においては、利益の大きい分野ともいえる。

	<p>(5) 海ぶどう養殖 翌日視察予定のため、翌日の報告者で詳細を報告。</p> <hr/> <p>4 成果</p> <p>海洋深層水については、笠岡市にそのまま適応できるものではないことは、視察前から理解していましたが、地の利を活かしたプロジェクトの進め方を研究してきました。</p> <p>離島における地域振興は、複合的な効果を発揮することに有ると確信をしました。島全体の産業振興に寄与するプロジェクトで有るがゆえに、この取り組みの素晴らしさがあるように思える。</p> <p>笠岡市において、新しく企画する場合も、基本的にこのような考え方がないと、プロジェクトの一部だけの発展で終わり、島民に利益をもたらせないことを肝に命じて考えなければならないであろう。</p> <hr/> <p>5 最後に</p> <p>この日の夕食は、外で食べることになっていたが、議長の計らいで、町長をはじめ、正副議長や他の議員の方、議会事務局長などと一緒に食事をする事になりました。</p> <p>地域振興や、議会改革、議会の位置づけ等について、多くの議論をかわすことができました。夜 11 頃まで議論は続きました。</p>
添付書類	○視察資料 ○視察状況写真 ○名刺







【3】 沖縄 県 久米島町 議会

住 所	沖縄県島尻郡久米島町字比嘉 2870
電 話	098-985-7128
視察案件	海洋深層水複合利用施設（海ブドウ）、町内観光施設
期 日	平成 28 年 7 月 7 日（木） 9 時 30 分 から 12 時 00 分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	海洋深層水利用海ぶどう養殖 ----- 島内観光施設
概 要	<p>1 視察目的</p> <p>（1）海洋深層水利用での、昨日の続きで、海ぶどう養殖を見学。</p> <p>（2）島の観光資源を、どのようなルートで周らせているのか。それに付随する設備（案内看板、休憩施設）や、観光地の整備について、出発までの残り時間で視察し、笠岡諸島の観光に寄与する。</p> <p>-----</p> <p>2 視察内容</p> <p>（1）海ぶどう養殖</p> <p>海ぶどうは、久米島において車海老と共に、代表的な生産品の1つである。沖縄県では、海ぶどうの販売量は年々増加傾向にある。その中で久米島は、生産量の6割強を占めている。</p> <p>このたび視察に訪れた施設は、海洋深層水の性質を利活用しての生産を行っている。</p> <p>ここでは、苗から製品まですべてをこの施設で行っている。また、製品に置いても、AランクからCランクまでであるが、Aランクのみを出荷している。</p> <p>ここでの生産は、海洋深層水の栄養の豊富さ、雑菌の少なさを活用し、品質の高いものだけを出荷している。また、深層水の特徴の1つである低温性を利用し、表層水と混合することにより、年間23℃を維持し、生産の少ない夏場においても安定した供給をすることが可能になっている。</p> <p>このような条件の中で、粒ぞろいで、同じ大きさの長さの海ぶどうが生産できている。</p> <p>またここでは、同業者に海ぶどうの苗も供給している。ここだけの一人勝ちではなく、同業者に貢献することで、地域産業の底上げにも貢献していることは、特筆すべきである。</p> <p>（2）島内観光施設</p> <p>島内の観光施設は、反時計回りに巡りやすいように設定してある。</p> <p>今回は、たまたま時計回りで回るようになったが、案内板等は、比較的わかりやすくなっていた。借しむらくは、メイン通りの案内板に距離を表示していないのがいくつか有り（中に入れば距離併用であった）、時間的余裕のない旅行者には、残念であった。</p>

名所においては、大きいところでは、休憩のベンチ等もよく整備されていたが、小規模な名所においては、清掃も行き届かない面も見受けられた。

名所としている中には、現地の人にとっては当たり前のこと（熱帯魚の見れる所など）だが、旅行者にとっては珍しいもので、沖縄を味わえるものであった。このような視点で考えると、旅行者の気持ちをよく配慮していると感じさせられた。

また、最後に訪れたシンリ浜は、滑走路が護岸の役割をしていて、台風が接近しているにも関わらず、穏やかなビーチとなっていた。

3 成果

海ぶどう養殖においては、深層水の性質をうまく利用していた。また、ここだけにとどまらず、最先端の技術を地域貢献し、地域振興の底上げを図っている点を評価したい。

観光地においては、メジャーな観光地はよく整備がされているが、マイナーな観光地は、清掃等が不十分な点がある。これは、八重瀬町においても共通することである。八重瀬町で聞いたところ、「沖縄人の特性かな」と答えられていました。

4 最後に

3日間にわたって、八重瀬町、久米島町を視察させていただき、一番感銘を受けたことは、訪問者を大切にすることである。

八重瀬町副町長のところで民泊させて頂いた時も、スタッフの方を招いたり、翌日訪問する久米島町長に連絡をさせていただきました。また、久米島においては、たった2人の視察にも関わらず、町長、議長をはじめ、多くの方々に集まっていただき、深夜まで話を伺うことができ、感謝の念に堪えませんでした。

観光は、物（ハード）、人（ソフト）の両方が成熟され成り立つものだと思います。

また、観光においては、旅行者目線で開発し、地域が潤うことを抜きに進めていくことは、成功につながらないと感じました。特に、八重瀬町のように、指導者育成、危機管理は、旅行者の安全安心に繋がる素晴らしい取り組みであるとおもいました。

添付書類

視察資料（前日資料内）

視察状況写真

名刺



